



1. 陸前高田市の被災状況

陸前高田市被災前後の写真 NO.1

震災前の駅前通り



震災後の駅前通り



陸前高田市被災前後の写真 NO.2

震災前の奇跡の一本松



震災後の奇跡の一本松



陸前高田市被災前後の写真 NO.3

震災前の高田松原

震災後の高田松原



陸前高田市の人的被災状況

<死亡・行方不明者> R6.10.20現在

・死亡者 **1,557名** ・行方不明者 **201名** ・計 **1,758名**(陸前高田市民の約9%)

<小中学校の児童生徒等の犠牲>

- ・学校管理下内の児童・生徒及び教職員の**犠牲者は0名**
- ・学校管理下外(保護者の迎え、午前授業での帰宅、当日の欠席者など)の**犠牲者は有り**

<市役所職員の犠牲者>

・正職員 **68名** ・臨時職員等 **45名** ・計 **113名**

<市教育委員会の状況>

- ・教育委員5名の内 (**教育委員長と教育長が犠牲**、1名が市外転出、2名が自宅を流出)
- ・**市教委課長級以上が全員犠牲**

2. 米崎中学校の被災状況

陸前高田市立米崎中学校の被災状況

校 舎



- ・校舎が縦に断裂
- ・ガス警報器が響く
- ・停電
- ・電話や携帯が不通
- ・地盤沈下

体 育 館



- ・地盤沈下による鉄骨や壁、基礎の変形
- ・停電
- ・断水
- ・浄化槽停止

3. 正しい判断や指示を乱したものの

多くの犠牲を生んだもの

1. 過去の情報

- (1) 明治・三陸大津波やチリ地震津波でも、町の中心まで来ない津波
- (2) 2日前の大きな地震でも、津波は数10cmの波高
- (3) 岩手県の津波の想定では、市役所1階までの波高

2. 多くの被災を出した市役所や市民会館、市民体育館などは市内中心地にあるが、第一指定避難所に指定

3. 当日の市広報で「3mの大津波が来る」と放送されて断線

4. 責任を感じながらの判断や指示

<1日目>

1. 父母と三人暮らしの養護教諭の懇願
2. 校庭から全校生徒に見せた津波
 - ・防潮堤の高さは5m
 - ・校庭の高さは海拔25m
3. 危険な体育館を避難所とする決断
 - ・気温は -3°C ～ -4°C
 - ・地域住民含め被災者は約200名
 - ・200名を避難させ、安全に行ける避難所は近くにない
4. 避難所のリーダーとなる決断
 - ・校長の立場では、地域住民を含めた避難者リーダーではなく、リーダーを補助する立場
 - ・出口の見えないトンネルの中では、朝まで心がもたない
 - ・みんなで取り組むことがあれば、少しでも苦しみを忘れられる
 - ・情報の管理(外からくる情報の管理)
 - ・防寒対応
 - ・余震対応
 - ・水の確保
5. 校長として
 - ・幼児と児童をもつ女教師のお願い
 - ・生徒の引き渡し
 - ・情報収集

<2日目>

1. 避難所を小学校体育館に移転

・消防団員に小学校を調査させ決定

2. 職員朝会で、教職員の今後の勤務について

・今後長期の異常な学校生活になるという予感から

①管理職を残し、全員帰宅する

②家族の安否や家のようすを確認する

③家族も家もどちらも大丈夫な教職員は、明日から毎日午前出勤し、午後は生徒の所在確認をする

④家族と家に課題がある教職員は、問題が解決するまで出勤はしない

3. 岩手県警から、体育館を遺体安置とする要請

・受けたくなかったけれども、遺族の気持ちを考え承諾する

4. 市教育委員会の崩壊

・生き残っていた市教委指導主事から、市教委の崩壊を知らされる

<教育委員・校長会合同会議の開催>

①明日13日小学校校長室で合同会議を開催する

②指導主事は、2名の教育委員探し、私(4月から市校長会長)は校長に連絡する

③開催を、市災害対策本部と小学校長から許可をもらう

5. 教えられたこと

1. 災害発生時には、100%命を守る行動をとる

- (1)過去のデータから学ぶことはあっても、過去のデータをもとに、行動しない
- (2)さまざまな想定値やその時の情報だけで、行動をしない

2. 全員が同じ目標をもって行動すれば、できないことはない

- (1)避難場所や避難所では、避難民の自治会を組織し、自分たちができることをする
- (2)支援する人と支援される人が、それぞれの立場で共通理解することが大事である

3. 責任をとる覚悟のもと、指示命令を即決しなければならない

おわり